I-O DATA

Ultra160 SCSI対応 10000rpm 内蔵型ハードディスク

HDI-S36C

取扱説明書

株式会社 アイ・オー・データ機器

93063-01

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
3) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
4) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
5) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
6) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。
7) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
8) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
9) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft,Windows,Windows NTは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

HDI-S36C 取扱説明書
2001.Jun.29 93063-01
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2001 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品および本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

お読みになる前に

このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
お使いの前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

呼び方

呼び方	意　味
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Operating System
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating System, Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating Systemの総称
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Version 4.0 Operating System
Windows Me/98	Windows Me, Windows 98の総称
Windows Me/98/NT 4.0	Windows Me, Windows 98, Windows NT 4.0の総称
Windows	Windows 2000, Windows Me, Windows 98, Windows NT 4.0の総称

マークの説明



注意
本製品を使う上で、注意するべきことが書かれています。



参考
本製品を使う上で、役に立つことが書かれています。

もくじ

お読みになる前に..... i
もくじ ii

はじめに 1

箱の中には 2
動作環境 3
本製品を使う上での注意 5
各部の名称・機能 7

パソコンに取り付ける 9

SCSI-IDを設定しよう 10
取り付け金具を取り付けよう 12
取り付けよう 15
接続状態を確認しよう 24
フォーマットしよう 26

付録 49

困った時には 50
パーティションの基礎知識 54
ジャンパスイッチの詳細設定 58
別売オプション品 61
ハードウェア仕様 62

ユーザー登録について 63
サポートセンターへのお問い合わせ 64
修理について 65

はじめに

箱の中には …… 2

箱の中のものを確認します。

動作環境 …… 3

本製品を使うことができるパソコン環境を説明します。

本製品を使う上での注意 …… 5

本製品を使う上での注意事項を説明します。

各部の名称・機能 …… 7

スイッチなどの名前と機能を説明します。

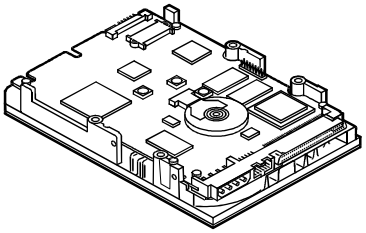
箱の中には

箱の中には下記のものが入っています。
□にチェックをつけながら、ご確認ください。
万が一不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

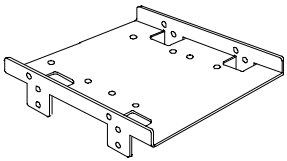
箱・梱包材は
大切に保管し、修理などで輸送の際にお使いください。

SCSIボード、SCSIケーブルについて
本製品にSCSIボード、SCSIケーブルは添付されていません。
必要な場合は、別途お買い求めください。
SCSIボードについては、【SCSIボード】(4ページ)をご覧ください。
SCSIケーブルについては、【SCSIケーブル】(4ページ)をご覧ください。

イラストについて
実物と若干異なる場合があります。



□ **ハードディスク(1個)**
[HDI-S36C]



□ **5インチベイ用金具(1個)**



□ **本体装着用ネジ(4個)**



□ **金具取付用ネジ(4個)**

- ☑ HDI-S36C取扱説明書(本書：1冊)
- □ **ジャンパピン(大 3個、小 3個)**
- □ **『安全で快適にお使いいただくために』(1冊)**
- □ **ハードウェアシリアルNo.シール(1枚)**
- □ **ハードウェア保証書(1枚)**
- □ **ユーザー登録カード(1枚)**

動作環境

本製品を使うことができるパソコン環境を説明します。

対応機種および対応OS

対応機種※1	対応OS（日本語版のみ）
NEC PC98-NXシリーズ DOS/Vマシン※2	Windows 2000, Windows Me※3,4, Windows 98 SE※4, Windows 98※4※5, Windows NT 4.0※6

※1　本製品を接続できるSCSIコネクタがあること。

※2　弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認をしています。

※3　フォーマット時に、フロッピーディスクドライブが必要です。

※4　フォーマット時に使うフォーマットコマンド（FDISK）は、Windowsの「MS-DOSプロンプト」上ではご利用いただけません。
（Windowsの「MS-DOSプロンプト」上でFDISKをご利用されるとパーティションが消える場合があります。）

※5　FDISKで複数パーティションを作成する場合は、アップデートが必要です。
このホームページから、FDISKのアップデートをしてください。

http://www.microsoft.com/japan/support/kb/articles/jp263/0/44.htm

※6　Service Pack 4以降が必要です。



パソコンの放熱と電源にご注意ください
【本製品の放熱・電力消費について】(5ページ)をご覧ください。

SCSIボード



本製品の容量に対応したSCSIボードをお使いください
SCSIボードは、お使いの本製品の容量をサポートしたものをお使いください。サポートしているかどうかにつきましては、お使いのSCSIボードのメーカーにお問い合わせください。
（下記の【推奨SCSIボード】をおすすめします。）

●推奨SCSIボード(Ultra160 SCSIボード)

Ultra160 SCSI転送（理論値:160M/バイト/sec）が可能です。

Adaptec社製	SCSI CARD 19160, 29160N, 29160, 39160

●動作可能SCSIボード(Ultra2Wide SCSIボード)

Ultra2Wide SCSI転送（理論値:80M/バイト/sec）が可能です。

弊社製	SC-U2PS※, SC-UPU2※, SC-U2PCI※

※ BIOSを「Wide転送を行う」設定にする必要があります。
方法の詳細は、お使いのSCSIボードの取扱説明書を参照してください。
設定しない場合、Ultra2Wide転送を行えません。
ただし、変換アダプタを使い、Narrow SCSI機器を接続した場合は、「Wide転送を行わない」設定にしてください。

SCSIケーブル

Ultra160対応の68ピンSCSIフラットケーブル（ターミネータ付き）が別途必要です。
下記のオプション品をおすすめいたします。

型番	長さ	タイプ
FL-S68L2	75cm	Ultra160対応68ピンSCSIフラットケーブル （２ドライブ対応、ターミネータ付き）
FL-S68L4	120cm	〃 （４ドライブ対応、ターミネータ付き）



弊社製FL-S68はお使いいただけません
弊社製FL-S68は、ターミネータ付きのケーブルではありません。

本製品を使う上での注意

本製品を使う上での注意事項を説明します。

添付の『安全で快適にお使いいただくために』も併せてご覧ください。

本製品の放熱・電力消費について

●近くに他の発熱体がない位置に取り付けてください

放熱のため、発熱体（他のドライブなど）の近くに取り付けることは避け、2cm以上離して取り付けてください。

なお、本製品は5インチベイへの取り付けをおすすめします。

●本製品を複数取り付ける場合は、放熱対策などをしてください

●HDDトップカバー面温度に、ご注意ください

HDDトップカバー面温度が60℃以内に収まるように取り付けてください。

●パソコンの電源定格にご注意ください

本製品は消費電力が多いため（最大消費電力 約40W）、電源が足りなくならないようご注意ください。

本製品の取り付け／取り外しについて

●事前にパソコンの電源を切って30分ほど待ってください

パソコン内部を冷やす必要があります。

●磁界の影響を受けないように取り付けてください

強磁性体（スピーカーなど）の近くを避けて取り付けてください。また、取り付けたパソコンを外部磁界の影響を受けないように設置してください。

●内部の部品や取り付け金具などにご注意ください

とがっていたり、手を切りやすくなっている場合があります。

●誤った接続をしない

故障したり正常に動作しなくなる可能性があります。

本書とパソコンの取扱説明書をよく読んで、正確に作業してください。

●パソコン内部にネジを落とさない

落ちたときは、内部の電子回路に触れないようにすぐに取り除いてください。

取り扱いについて

●濡れた手で、本製品を取り扱わない

感電や、本製品の故障の原因となります。

●本製品に付いた汚れを落とす場合は･･･

柔らかい布で乾拭きしてください。
洗剤で汚れを落とす場合は、必ず中性洗剤を水で薄めてお使いください。
ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使わないでください。

●本製品内部で結露させたまま使わない

本製品を寒い所から暖かい場所へ移動したり、部屋の温度が急に上昇すると、本体内部が結露する場合があります。そのまま使うと誤動作や故障の原因となる場合があります。時間をおいて、結露がなくなってからお使いください。

●本製品の基板部分には触れない

感電や、本製品の故障の原因となります。

●本製品内部に液体、金属などの異物を入れない

本製品の故障の原因となります。

●本製品のコネクタ部分に金属を差し込まない

感電や、本製品の故障の原因となります。

本製品内のデータについて

●本製品内のデータは定期的にバックアップしてください

本製品に書き込んだデータやプログラムファイルが、誤動作や故障などによって破壊された場合、完全に復旧することはできません。

各部の名称・機能

スイッチなどの名前と機能を説明します。

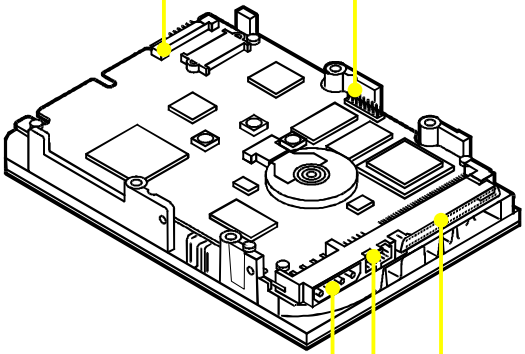
ジャンパスイッチ１

SCSI-IDを設定します。

【SCSI-IDを設定しよう】(10ページ)

ジャンパスイッチ２

通常、設定の必要はありません。



電源コネクタ

パソコン内部の電源ケーブルを接続します。

ジャンパスイッチ３

通常、設定の必要はありません。

接続コネクタ

Ultra160対応68ピンSCSIフラットケーブルを接続します。

参考

ジャンパスイッチの詳細設定

【ジャンパスイッチの詳細設定】(58ページ)をご覧ください。

Memo

パソコンに取り付ける

SCSI-IDを設定しよう ・・・・・・・・・・・・・・１０

SCSI-IDの設定方法を説明します。

取り付け金具を取り付けよう ・・・・・・・・・・・・・・１２

本製品に取り付け金具を取り付ける方法について説明します。

取り付けよう ・・・・・・・・・・・・・・１５

本製品を取り付ける方法について説明します。

接続状態を確認しよう ・・・・・・・・・・・・・・２４

接続状態を確認する方法を説明します。

フォーマットしよう ・・・・・・・・・・・・・・２６

本製品をフォーマットする方法を説明します。

SCSI-IDを設定しよう

SCSI-IDの設定方法を説明します。

SCSI-IDの範囲・条件

0～15の間で、他のSCSI機器と重ならないように設定します。

参考

SCSI-IDを設定する際のヒント

- **本製品のみを接続している場合**
  SCSI-ID=0：本製品（出荷時設定。変更の必要はありません。）
- **複数のSCSI機器を接続している場合**
  他のSCSI機器と重ならないように、SCSI-IDを設定してください。

SCSI-ID 7について

SCSI-ID 7は、通常SCSIボードが使っています。

SCSIハードディスクから起動している場合

SCSI-IDを、起動しているハードディスクより大きくしてください。

設定方法

本製品は、「ジャンパスイッチ１」(7ページ)に取り付けるジャンパピン（大）の組み合わせにより、SCSI-IDを設定します。

注意

所定の位置にだけジャンパピンを取り付けてください

他の場所に取り付けたり、横向きに取り付けると、誤動作、故障のおそれがあります。

次ページの通りに取り付けてください。

ジャンパピンをなくさないようにご注意ください

なくさないように大切に保管してください。

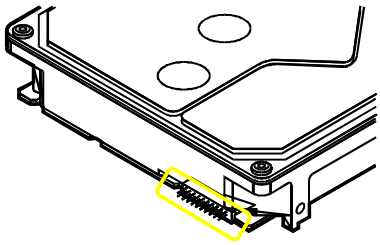
参考

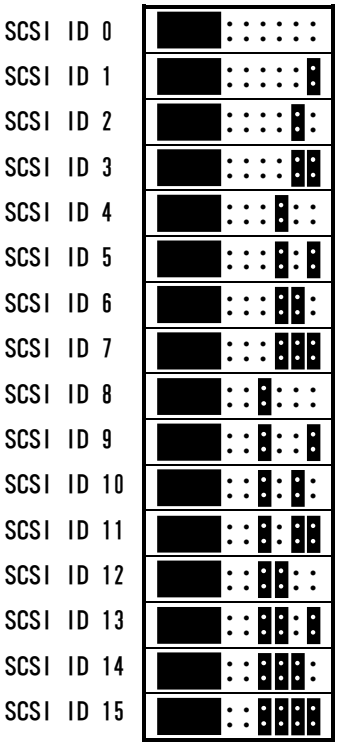
ジャンパスイッチの他の設定について

【ジャンパスイッチの詳細設定】(58ページ)をご覧ください。

SCSI-IDを15にする場合は、別途ジャンパピンが必要です

SCSI-IDを15にする場合は、4個のジャンパピンが必要です。





[出荷時設定]

[通常使わないでください]

取り付け金具を取り付けよう

取り付け金具の取り付けについて説明します。

取り付け場所について

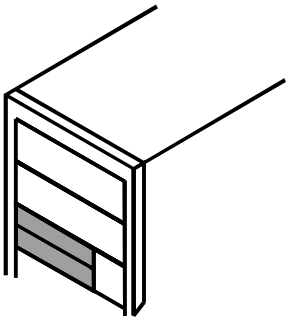
本製品の取り付け場所について説明します。

こちらの注意もご覧ください
【本製品を使う上での注意】(5ページ)もご覧の上、取り付け場所を決めてください。

下図は一般的なパソコンの例です
パソコンによっては別の場所に3.5インチベイや5インチベイがあります。
取り付け場所の位置については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

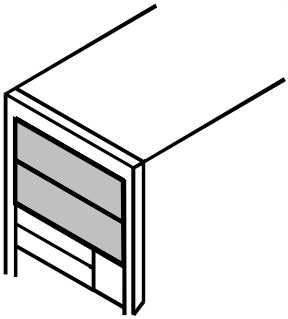
●3.5インチベイ

フロッピーディスクドライブと同じ大きさの内蔵ドライブを取り付けられる場所です。



●5インチベイ（ファイルベイ）

CD-ROMドライブと同じ大きさの内蔵ドライブを取り付けられる場所です。



取り付け金具を選ぶ

本製品は、パソコンによって取り付け場所と使う金具が異なります。

●PC98-NXシリーズ

対応機種	取り付け場所	使う金具
MA16C/SZ, MA20C/SZ, MA23C/SZ, MA23D/SZ, MA26D/SZ, MA30D/SZ, MA35D/SZ, VS16C/S5, VS20C(/S5,/S7), VS23D(/S5,/S7), VS26D(/S5,/S7,/SZ), VS30(/35C,/35D,/37C,/37D,/45C,/45D,/47C,/47D), VS35(/37A,/47A)	3.5インチベイ	HDK-NXS※
MA23D/MZ, MA30D/MZ, MA30E/MZ, MA33D/MZ, MA40D/MZ, MA45J/MZ, MA50J/MZ, MA55J/MZ, MA60J/MZ, MA66T/MZ, MA86T/MZ, VM30(/37C,/37D,/3XC,/3XD,/47C,/47D,/4XC,/4XD), VM30G(/47C,/47D), VM35(/3XC,/3XD,/3ZC,/3ZD,/4XC,/4XD,/4ZC,/4ZD), VM40(/3FC,/3FD,/4FC,/4FD), VM550J(/77C,/77D,/7GC,/7GD,/7ZC,/7ZD,/87D,/8GD,/8ZD), VS26D(/MZ,/M7), VS30D/M7, VS30D/MZ, VS33D/M7	3.5インチベイ	HDK-NXM※
	5インチベイ	5インチベイ用金具
上記以外の機種	3.5インチベイ	使わない
	5インチベイ	5インチベイ用金具

※ 別売オプション品です。取り付け方は各取扱説明書をご覧ください。

●DOS/Vマシン

取り付け場所	使う金具
3.5インチベイ	使わない
5インチベイ	5インチベイ用金具

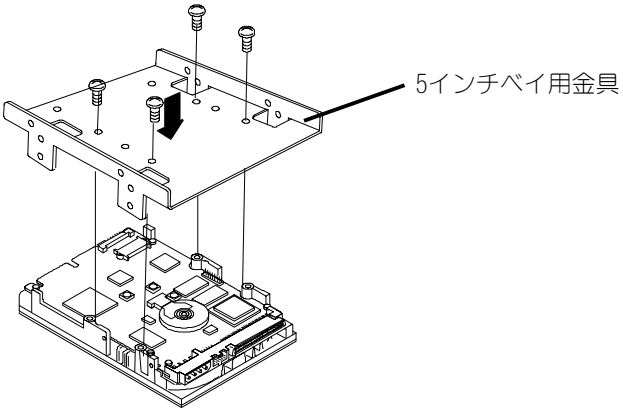
5インチベイ用金具の取り付け方

1 本製品を裏返します。

本製品の基板のある方を上に向けます。

2 5インチベイ用金具を取り付けます。

金具取付用ネジを4個取り付けて、5インチベイ用金具を固定します。



取り付けよう

本製品の取り付けについて説明します。



こちらの注意もご覧ください
【本製品を使う上での注意】(5ページ)もご覧の上、取り付けてください。



ハードディスクなどの転送速度の速いSCSI機器は・・・
なるべくターミネータに近い個所に接続してください。

取り付け手順は、取り付け場所や使う金具によって異なります。
下表をご覧になり、それぞれにあったページをご覧ください。

取り付け場所	使う金具	取り付け手順	
3.5インチベイ	使わない	【金具なしで取り付ける】	次ページ
	HDK-NXM	【HDK-NXMで取り付ける】	18ページ
	HDK-NXS	【HDK-NXSで取り付ける】	20ページ
5インチベイ	5インチベイ金具	【5インチベイに取り付ける】	22ページ

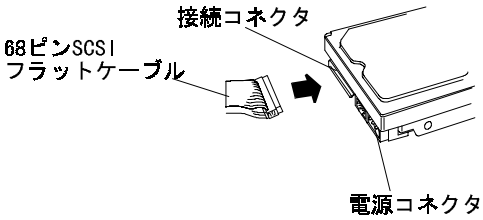
金具なしで取り付ける

1 **パソコンと全ての周辺機器の電源を切ります。**

2 **パソコンに接続されている全てのケーブルを取り外します。**

3 **ルーフカバーを取り外します。**
パソコンの取扱説明書をご覧ください。

4 **本製品にSCSIフラットケーブルを取り付けます。**
Ultra160対応68ピンSCSIフラットケーブルのコネクタと本製品のコネクタの形を確認して、確実に奥まで挿入します。



5 **本製品をパソコンにゆっくりと途中まで入れます。**

6 **パソコン内部の電源ケーブルを、本製品に接続します。**

7 **SCSIフラットケーブルの片側を、SCSIボードに接続します。**

参考

SCSIボードのコネクタについて
「LVD」に対応したコネクタに接続してください。
それ以外のコネクタでは、最高転送速度を出すことはできません。

8 **本製品を金具取付用ネジで固定します。**

9 **ルーフカバーを取り付けます。**

パソコンの取扱説明書をご覧ください。

10 **取り外した全てのケーブルをパソコンに取り付けます。**

以上で、取り付けは終了です。
【接続状態を確認しよう】(24ページ)へお進みください。

HDK-NXMで取り付ける

1 パソコンと全ての周辺機器の電源を切ります。

2 パソコンに接続されている全てのケーブルを取り外します。

3 ルーフカバーを取り外します。

パソコンの取扱説明書をご覧ください。

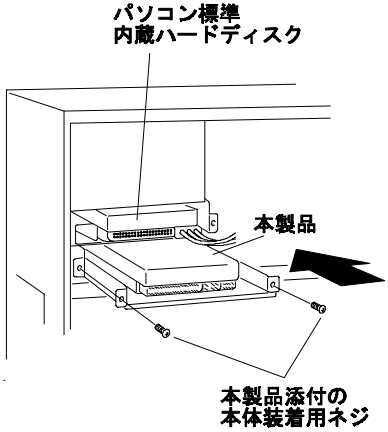
4 パソコン標準内蔵ハードディスクのケーブルを取り外します。

パソコン標準内蔵ハードディスクに接続してあるフラットケーブルを取り外します。

※ 取り外したフラットケーブルは、大切に保管してください。

5 本製品をパソコンに取り付けて本体装着用ネジで固定します。

本製品を下図のようにパソコンに取り付けて、添付の本体装着用ネジで固定します。



6 SCSIボードと本製品を接続します。

用意したUltra160対応68ピンSCSIフラットケーブルを使って、SCSIボードと本製品を接続します。

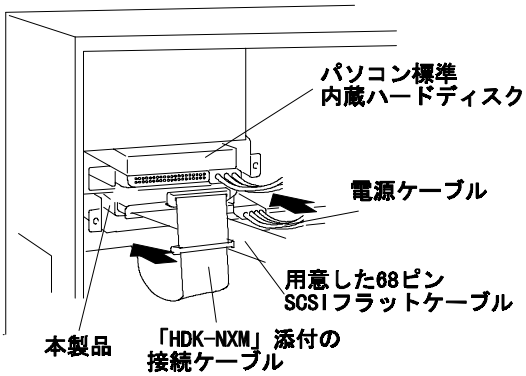
参考

SCSIボードのコネクタについて
「LVD」に対応したコネクタに接続してください。
それ以外のコネクタでは、最高転送速度を出すことはできません。

7 本製品に電源ケーブルを接続します。

8 パソコン標準内蔵ハードディスクを接続します。

「HDK-NXM」添付のIDEフラットケーブルを使って、パソコン標準内蔵ハードディスク用コネクタとパソコンのIDEコネクタを接続してください。



9 ルーフカバーを取り付けます。

パソコンの取扱説明書をご覧ください。

10 取り外した全てのケーブルをパソコンに取り付けます。

以上で、取り付けは終了です。
【接続状態を確認しよう】(24ページ)へお進みください。

HDK-NXSで取り付ける

1 パソコンと全ての周辺機器の電源を切ります。

2 パソコンに接続されている全てのケーブルを取り外します。

3 パソコンのルーフカバーとフロントマスクを取り外します。

パソコンの取扱説明書をご覧ください。

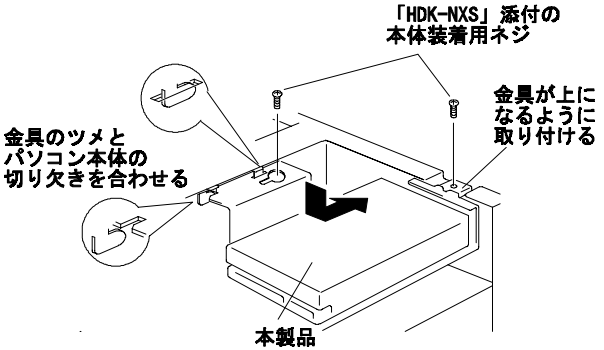
注意

フロントマスクを外す際は
パソコンとフロントマスクはケーブルで接続されており、完全には取り外せません。
無理な力を加えて、ケーブルを切断したり傷つけたりしないでください。

4 CD-ROMドライブを前面に半分ほど引き出します。

パソコンの取扱説明書をご覧ください。

5 本製品を取り付け、本体装着用ネジで固定します。



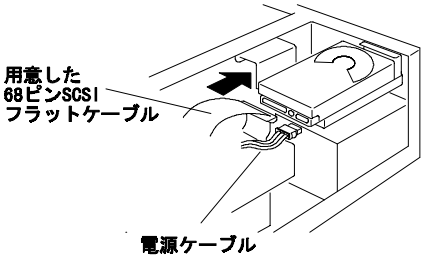
6 SCSIボードと本製品を接続します。

用意したUltra160対応68ピンSCSIフラットケーブルを使って、SCSIボードと本製品を接続します。

参考

SCSIボードのコネクタについて
「LVD」に対応したコネクタに接続してください。
それ以外のコネクタでは、最高転送速度を出すことはできません。

7 本製品に電源ケーブルを接続します。



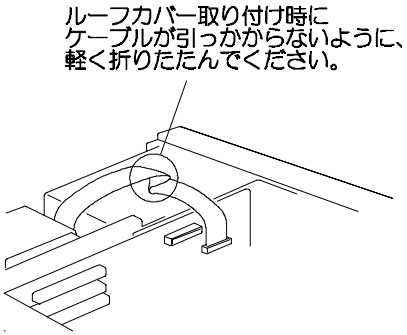
8 CD-ROMドライブとフロントマスクを元通りにします。

参考

CD-ROMドライブを元通りにする際は
ケーブル等をはさまないように注意し、「カチッ」という音がするまで
しっかり押し込んでください。

9 ルーフカバーを取り付けます。

パソコンの取扱説明書をご覧ください。



10 取り外した全てのケーブルをパソコンに取り付けます。

以上で、取り付けは終了です。
【接続状態を確認しよう】(24ページ)へお進みください。

5インチベイに取り付ける

1 パソコンと全ての周辺機器の電源を切ります。

2 パソコンに接続されている全てのケーブルを取り外します。

3 パソコンのルーフカバーとフロントカバーを取り外します。

パソコンの取扱説明書をご覧になり、ルーフカバーと5インチベイのフロントカバーを取り外します。

4 本製品をパソコン前面から5インチベイに入れます。

5 本製品をパソコンに取り付けます。

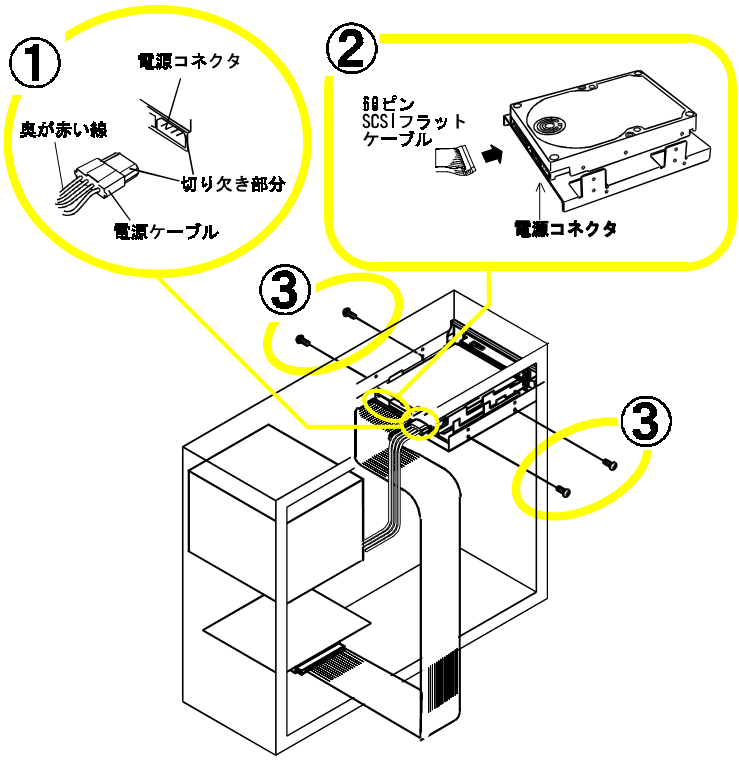
① 電源ケーブルを本製品の電源コネクタに接続します。
コネクタの形を確認し、取り付けてください。

② 本製品に、SCSIボードに接続されたUltra160対応68ピンSCSIフラットケーブルを取り付けます。
SCSIフラットケーブルのコネクタと本製品のコネクタの形を確認して、確実に奥まで挿入します。

③ 本製品を5インチベイに固定します。
本製品と5インチベイのネジ穴が合うように、本製品を5インチベイに押し込み、添付の本体装着用ネジで固定します。



SCSIボードのコネクタについて
「LVD」に対応したコネクタに接続してください。
それ以外のコネクタでは、最高転送速度を出すことはできません。



6 **ルーフカバーとフロントカバーを取り付けます。**
パソコンの取扱説明書をご覧ください。

7 **取り外した全てのケーブルをパソコンに取り付けます。**

以上で、取り付けは終了です。
【接続状態を確認しよう】(次ページ)へお進みください。

接続状態を確認しよう

接続状態を確認する方法を説明します。



電源は外付SCSI機器から入れてください

外付SCSI機器もお使いの場合は、すべての外付SCSI機器の電源を入れてから、パソコンの電源を入れてください。先にパソコンの電源を入れた場合は、外付SCSI機器が使えないことがあります。

1 パソコンを起動します。



パソコンが正常に起動しない場合

【パソコンが起動途中で止まってしまう】(50ページ)をご覧ください。

2 SCSIボードのBIOSを「Wide転送を行う」設定にします。

方法の詳細は、お使いのSCSIボードの取扱説明書を参照してください。

設定しない場合、Wide転送されません。

※ 変換アダプタを使い、Narrow SCSI機器を接続した場合は、「Wide転送を行わない」設定にしてください。

3 SCSIボードでベリファイテストができる場合は・・・

本製品にベリファイテストをしてください。

方法については、SCSIボードの取扱説明書をご覧ください。



弊社製の動作可能SCSIボードをお使いの場合

サポートディスクから起動し、「ディスクユーティリティ」の[ディスクデータのベリファイ]を実行してください。

ベリファイテストができない場合は

お使いのOSごとに下の方法で本製品のテストをしてください。

- **Windows Me/98**

  本製品をフォーマット後、「スキャンディスク」でエラーチェック（「チェック方法」は[完全]を選択）をします。

- **Windows 2000、Windows NT 4.0**

  フォーマット時にベリファイテストされます。

3 本製品をフォーマットします。

はじめは、パソコン（SCSIボード）に接続しただけでは本製品を使えません。本製品をフォーマットしてはじめて使えます。

【フォーマットしよう】(次ページ)へお進みください。

フォーマットしよう

本製品のフォーマットについて説明します。



フォーマットする前に
フォーマットすると、本製品に入っているデータはすべて消えます。
本製品に必要なデータがある場合は、そのデータを他の場所に保存してから
フォーマットしてください。



パーティションについて
フォーマットの際に、「パーティション」の知識が必要となります。
詳しくは、【パーティションの基礎知識】(54ページ)をご覧ください。

フォーマット手順は、お使いのOSによって異なります。
下表をご覧になり、それぞれにあったページをご覧ください。

お使いのOS	取り付け手順	
Windows Me/98	【Windows Me/98でフォーマットする】	次ページ
Windows 2000	【Windows 2000でフォーマットする】	34ページ
Windows NT 4.0	【Windows NT 4.0でフォーマットする】	47ページ

Windows Me/98でフォーマットする

弊社製の動作可能SCSIボードをお使いの場合のフォーマット方法を説明します。



他社製SCSIボードをお使いの場合
フォーマット方法については、そのSCSIボードの取扱説明書をご覧になるか、SCSIボードのメーカーにお問い合わせください。

1 パソコンを「Command Prompt Only」で起動します。

Windows Meの場合

Windows Meの起動ディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、パソコンの電源を入れます。

メニューが表示されたら、「3」と入力して↵キーを押します。

Windows 98の場合

［Ctrl］キーを押したまま、パソコンの電源を入れます。

メニューから［Command Prompt Only］を選択します。

※メニューが表示されない時は、パソコンが起動している途中で［Ctrl］キーを押したり、はなしたりしてください。

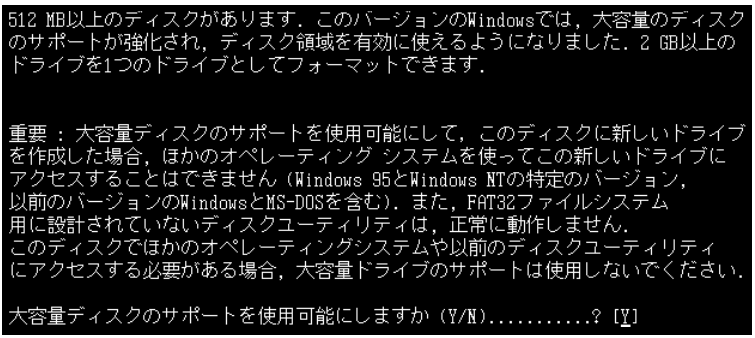


Windows Meの起動ディスクを作るには
①［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を開きます。
②［アプリケーションの追加と削除］アイコンをダブルクリックします。
③［起動ディスク］タブをクリックします。
④フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入して、［ディスクの作成］ボタンをクリックします。
※Windows MeのCD-ROMを要求されることがあります。
⑤「このディスクのファイルは全て削除されます」という内容のメッセージが表示されるので、［OK］ボタンをクリックします。
⑥進行状況の表示が消えたら、［OK］ボタンをクリックします。

2 FDISKと入力し、↵キーを押します。

3 下の画面が表示されます。

下の参考をご覧になり、「Y」か「N」を入力して↵キーを押します。



参考

画面が表示されなかった場合

「Y」を入力したのと同じになります。次にお進みください。

「Y」を入力した場合

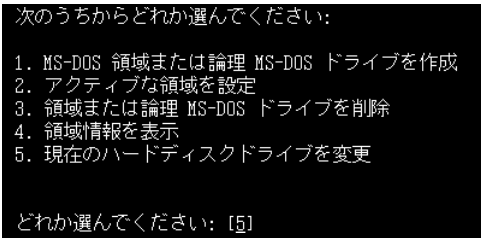
2047Mバイトを超えるパーティションを作成できます。
ただし、Windows NT 4.0などのOSからアクセスできなくなります。

「N」を入力した場合

Windows NT 4.0などのOSからもアクセスできます。
ただし、2047Mバイトを超えるパーティションを作成できなくなります。

4 「現在のハードディスクドライブを変更」を選択します。

「5」（現在のハードディスクドライブを変更）を入力し、↵キーを押します。



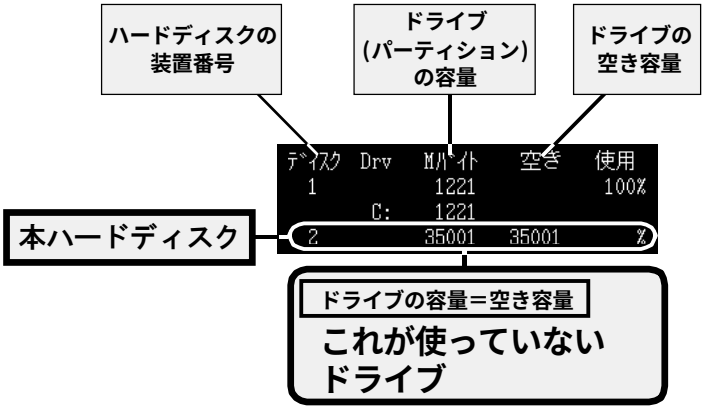
注意

[5]（現在のハードディスクドライブを変更）の表示がない

[ESC]キーでFDISKを終了し、【・FDISKで[5]の項目が表示されない】(52ページ)をご覧ください。

5 本製品を選択します。

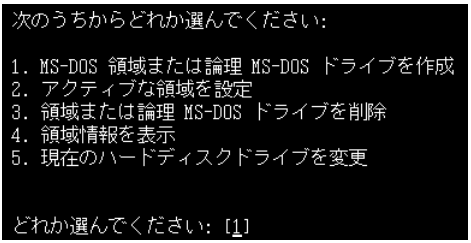
ドライブの容量とドライブの空き容量が同じであるハードディスクが本製品です。その装置番号を入力して、↵キーを押します。



使っていないドライブがない場合
[ESC]キーでFDISKを終了し、【・FDISKで使っていないドライブが見つからない】(52ページ)をご覧ください。

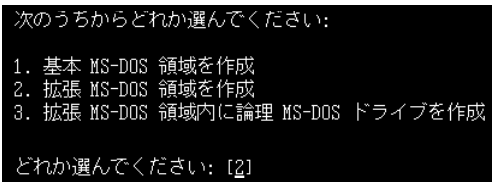
6 「MS-DOS領域または論理MS-DOS･･･」を選択します。

「1」（MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成）を入力し、↵キーを押します。



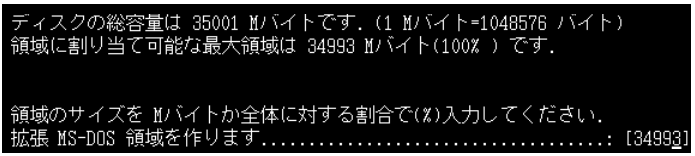
7 「拡張MS-DOS領域を作成」を選択します。

「2」（拡張MS-DOS領域を作成）を入力し、↵キーを押します。



8 本製品の全容量を指定します。

表示されている領域のサイズを確認し、↵キーを押します。



ここで指定する領域のサイズについて

この後の手順で「拡張MS-DOS領域」内にいくつかの「論理ドライブ」を作成します。（次ページ参照）

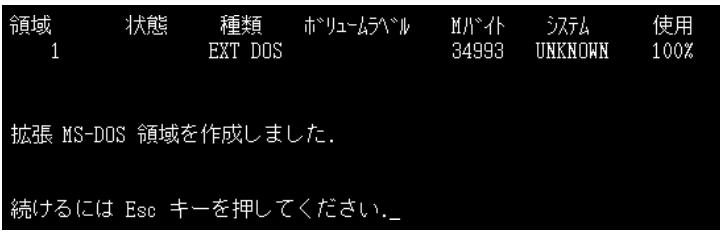
ここでの領域のサイズ指定は、「拡張MS-DOS領域」内のすべての「論理ドライブ」の合計です。

「領域に割り当て可能な最大領域」（拡張MS-DOS領域用の空き容量）が1,000Mバイトあるのに700Mバイトしか指定しなかった場合、残りの300Mバイトは使えなくなります。

「拡張MS-DOS領域」と「論理ドライブ」について

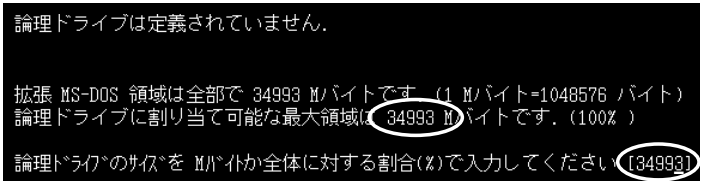
「拡張MS-DOS領域」内に「論理ドライブ」を作らないと、そのままドライブとして使うことはできません。

9 下の画面が表示されますので、［ESC］キーを押します。



10 作成する「論理ドライブ」の容量を入力します。

「論理ドライブに割り当て可能な最大領域」で表示されている容量以下のサイズを入力し、↵キーを押します。

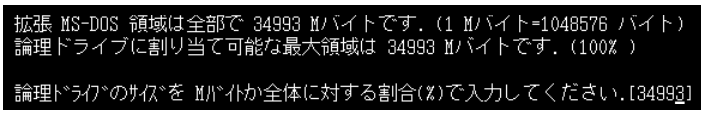


手順*10*の画面が表示されなかった場合
手順*1*～*7*までの作業をすれば、手順*10*の画面が表示されます。

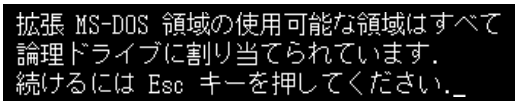
本製品を１つのドライブで使う場合は
そのまま↵キーを押します。

「論理ドライブ」の容量の入力方法について
- **サイズを［Mバイト］で指定する場合**
  指定したいサイズの数字のみを入力してください。
  （例：1000Mバイトを指定したい場合は、「1000」と入力します。）
- **サイズを［%］で指定する場合**
  指定したいパーセンテージに「%」をつけて入力してください。
  （例：30パーセントを指定したい場合は、「30%」と入力します。）

11 残り容量が無くなるまで「論理ドライブ」を作ります。



▲この場合は、手順*10*をもう一度行ってください。



▲この場合は、完了です。［ESC］キーを押します。

12 ［ESC］キーを３回押します。

13 起動ディスクを取り出し、パソコンを再起動します。

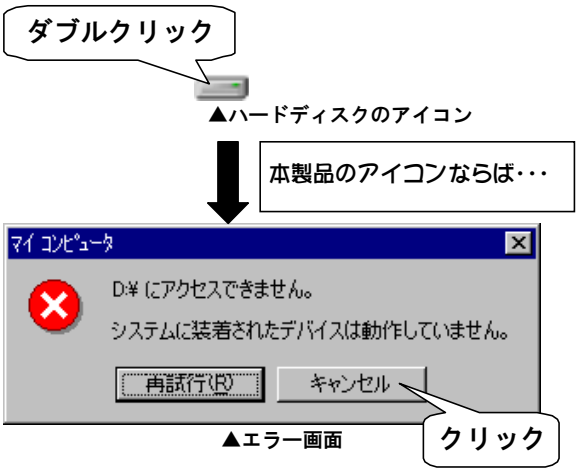
フロッピーディスクドライブから起動ディスクを取り出します。
［Ctrl］+［Alt］+［Delete］キーを同時に押し、パソコンを再起動します。

14 本製品のアイコンを確認します。

［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックし、「マイコンピュータ」を開きます。
表示されたドライブアイコンの中から本製品のアイコンを確認します。

本製品のアイコンの確認方法

ハードディスクのアイコンをダブルクリックし、エラー画面が表示されたアイコンが本製品のアイコンです。
本製品のアイコンを確認したら、［キャンセル］ボタンをクリックして、エラー画面を閉じてください。



15 表示された［フォーマット］をクリックします。

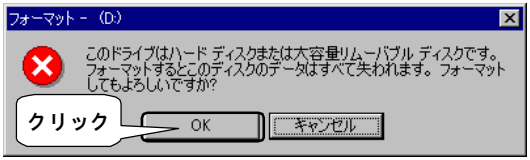
本製品のアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］をクリックします。

16 ［通常のフォーマット］でフォーマットします。

［通常のフォーマット］を選び、［開始］ボタンをクリックします。



17 ［OK］ボタンをクリックします。



18 フォーマットが終わったら、スキャンディスクをします。

フォーマットが終わると、画面上にヘルプが表示されます。
ヘルプの指示にしたがって、スキャンディスクを実行してください。

19 作成した「論理ドライブ」の数だけフォーマットします。

まだフォーマットしていない「論理ドライブ」（本製品のアイコン）があれば、手順*14* からくり返してください。

20 パソコンを再起動します。

すべての「論理ドライブ」をフォーマットできたら、パソコンを再起動します。

以上でフォーマットは終了です。本製品をお使いください。

参考

フォーマット後の確認

フォーマット終了後、他の機器のドライブ名が変更される場合がありますので、各装置のドライブ名を再度ご確認ください。

Windows 2000でフォーマットする

●ディスクの署名

Windows 2000でハードディスクを使うには、ディスクに署名をする必要があります。

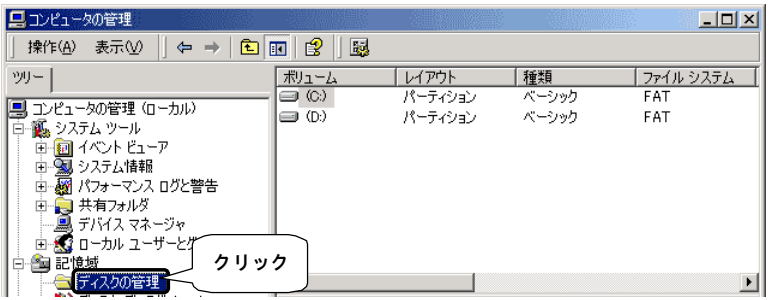
1 「コンピュータの管理」を起動します。

［マイコンピュータ］を右クリックし、表示された［管理］をクリックします。

2 ［ディスクの管理］をクリックします。

［記憶域］の下にある［ディスクの管理］をクリックします。

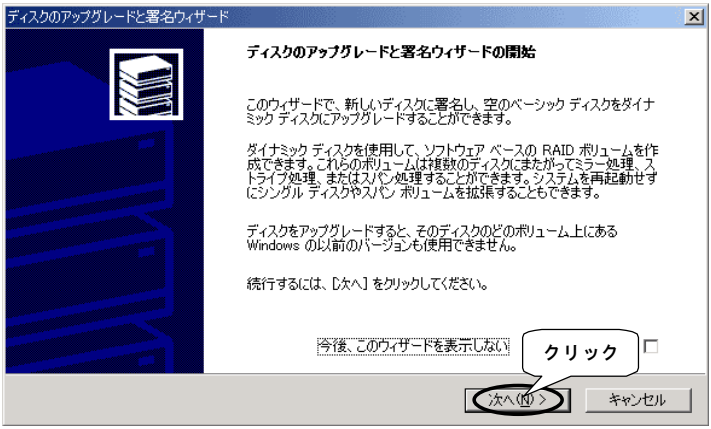
⇒「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が表示されます。



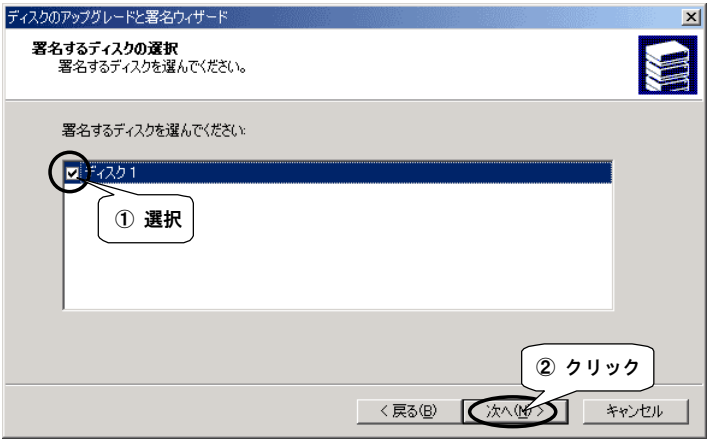
「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が表示されない

- **本製品が正しく接続されていません。**
  【取り付けよう】(15ページ)をもう一度ご覧ください。
- **表示されない設定になっています。**
  本製品のアイコンを右クリックし、表示された［署名］をクリックしてください。
- **本製品は署名されています。**
  【パーティションの作成とフォーマット】(37ページ)へお進みください。

3 ［次へ］ボタンをクリックします。



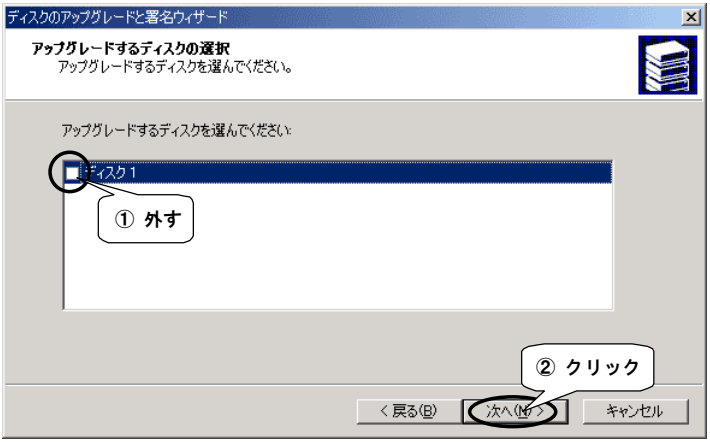
4 署名するディスクを選び、［次へ］ボタンをクリックします。



注意

署名をしてください
署名をしないと、ハードディスクは使えません。

5 チェックを全てはずし、［次へ］ボタンをクリックします。

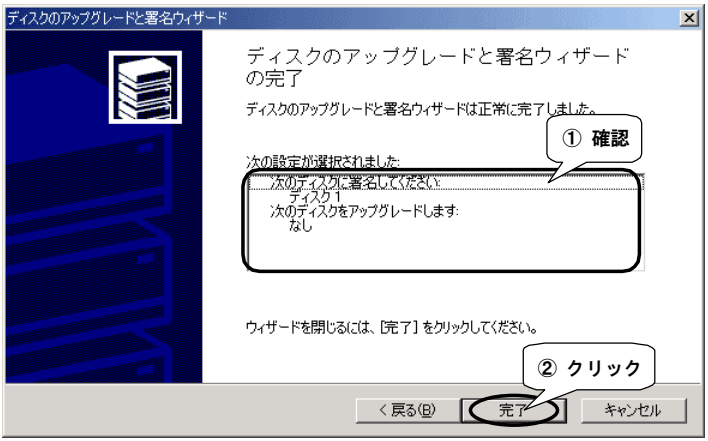


参考

ここでチェックしてしまうと・・・
「ダイナミックディスク」となります。「ダイナミックディスク」は、Windows Me/98などで使えません。
詳細は、Windows 2000の取扱説明書、オンラインヘルプをご覧ください。

6 設定を確認して、［完了］ボタンをクリックします。

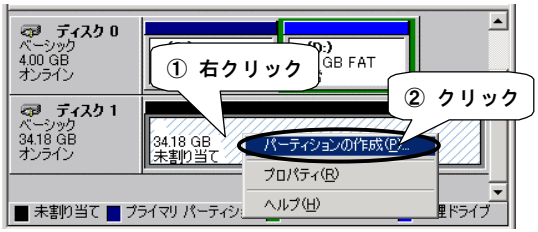
設定が正しいことを確認し、［完了］ボタンをクリックします。
⇒署名が行われます。



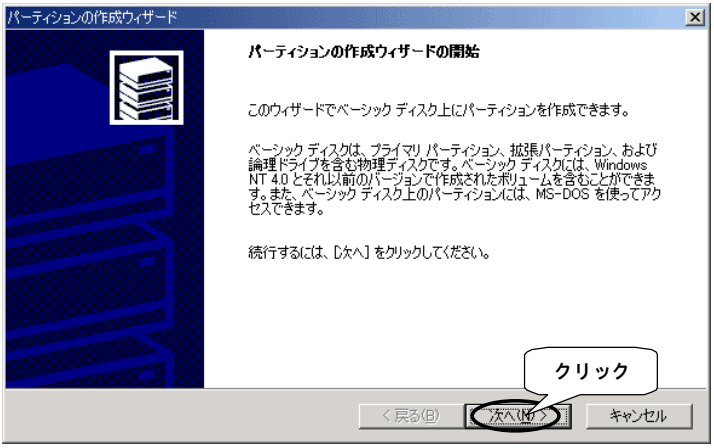
●パーティションの作成とフォーマット

7 「パーティションの作成ウィザード」を起動します。

フォーマットしたいハードディスクの未割り当ての領域を右クリックし、表示された［パーティションの作成］をクリックします。
⇒「パーティションの作成ウィザード」が起動します。

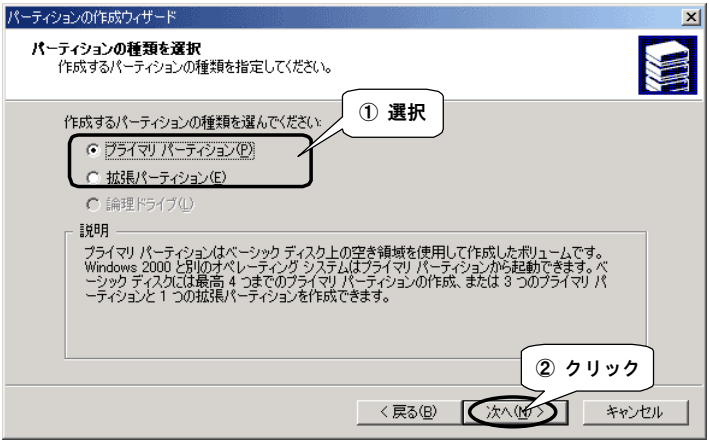


8 ［次へ］ボタンをクリックします。



9 **作成する種類を選び、［次へ］ボタンをクリックします。**

作成するパーティションの種類を選択します。
パーティションについては下に表示されている説明をご覧ください。
その後、［次へ］ボタンをクリックします。



参考

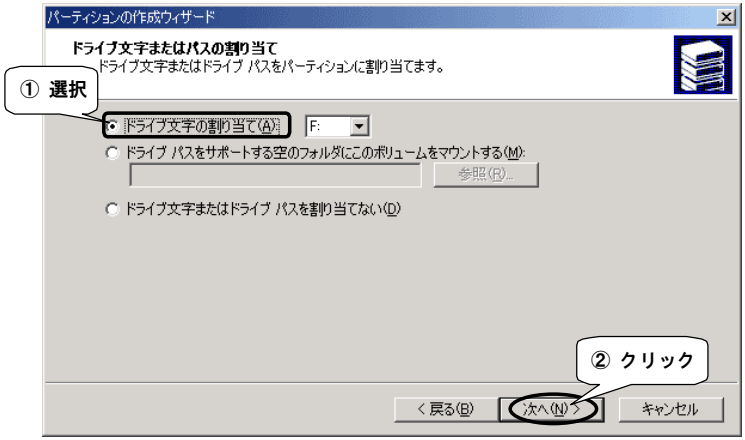
パーティションの種類がよく分からない場合は･･･
［プライマリパーティション］を選んでください。

10 **使う容量を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。**

この後、プライマリパーティションを作成した場合は手順**11**へ、
拡張パーティションを作成した場合は手順**14**へ進みます。



11 ドライブ文字を選び、［次へ］ボタンをクリックします。



ここでの選択

［ドライブパスをサポートする空のフォルダにこのボリュームをマウントする］を選択することもできます。詳細は、Windows 2000の取扱説明書かオンラインヘルプをご覧ください。

12 フォーマットするように指定します。

［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］を選択します。

画面例は次ページ

13 ファイルシステムの設定を行います。

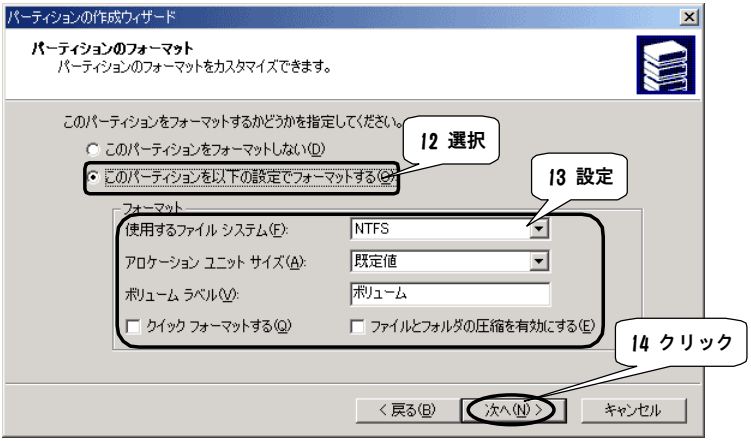
「使用するファイルシステム」項目を設定します。

画面例は次ページ

設定したいファイルシステムがある場合

手順*10*で［使用するディスク領域］を、ファイルシステムの最大容量以下に設定してください。最大容量については、【パーティションの基礎知識】(54ページ)をご覧ください。

14 ［次へ］ボタンをクリックします。

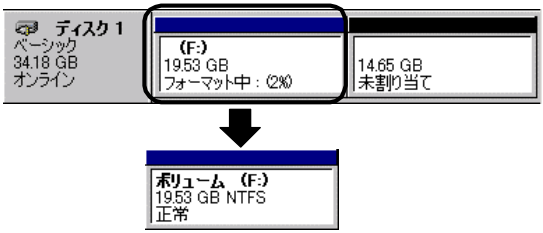


15 設定内容を確認して、［完了］ボタンをクリックします。



・プライマリパーティションを作成した場合

プライマリパーティションのフォーマットを開始します。
フォーマットには、容量に応じた時間がかかります。
フォーマットが終わると、「マイコンピュータ」に本製品のアイコンが表示されます。
以上でフォーマットは終了です。
フォーマット後は、再起動せずにそのまま本製品を使えます。



参考

「未割り当て」の領域があまっている場合は・・・
手順 *1* から、もう一度行ってください。
作成したパーティションの次回からのフォーマットについて
本製品のアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］をクリックします。

・拡張パーティションを作成した場合

拡張パーティションは、その中に「論理ドライブ」を作る必要があります。
【論理ドライブの作成】(次ページ)をご覧ください。

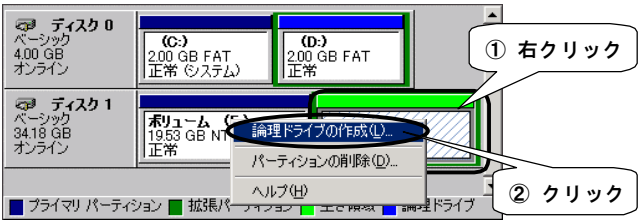
●論理ドライブの作成

参考

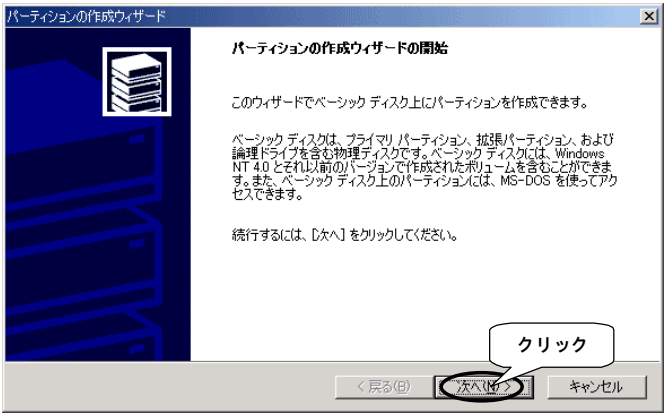
プライマリパーティションを作成した方は
ここでの作業は必要ありません。

16 「空き領域」に論理ドライブを作成します。

論理ドライブを作成する拡張領域の「空き領域」を右クリックし、表示された［論理ドライブの作成］をクリックします。

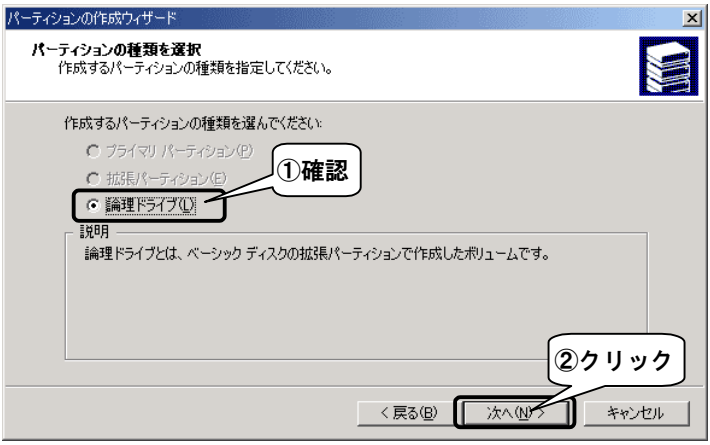


17 ［次へ］ボタンをクリックします。

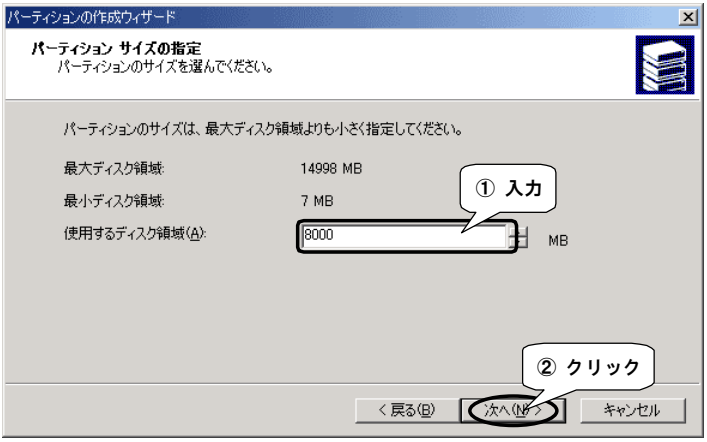


18 ［次へ］ボタンをクリックします。

このとき、［論理ドライブ］が選択されていることを確認してください。

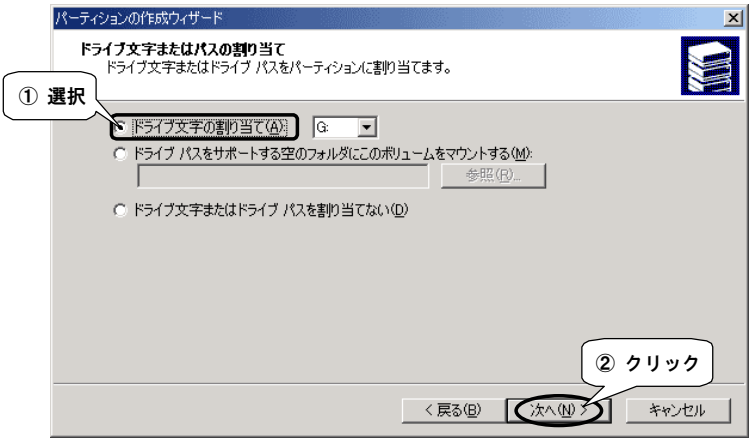


19 使う容量を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。



20 ドライブ文字を選び、［次へ］ボタンをクリックします。

［ドライブ文字の割り当て］を選択します。その後、［次へ］ボタンをクリックします。



ドライブ文字について

［ドライブ文字の割り当て］の右にあるアルファベットが、論理ドライブのドライブ文字になります。通常、変更する必要はありません。

他の選択について

［ドライブパスをサポートする空のフォルダにこのボリュームをマウントする］を選択することもできます。詳細は、Windows 2000の取扱説明書かオンラインヘルプをご覧ください。

21 フォーマットするように指定します。

［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］を選択します。

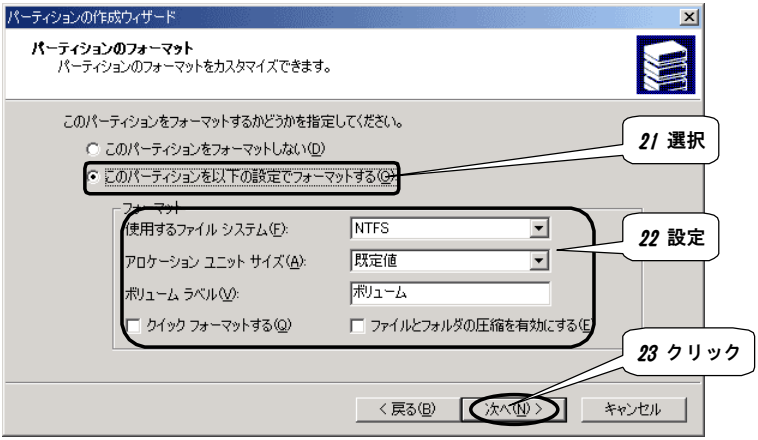
22 ファイルシステムの設定を行います。

フォーマットの中の「使用するファイルシステム」項目を設定します。項目の詳細については、Windows 2000の取扱説明書もしくはオンラインヘルプをご覧ください。

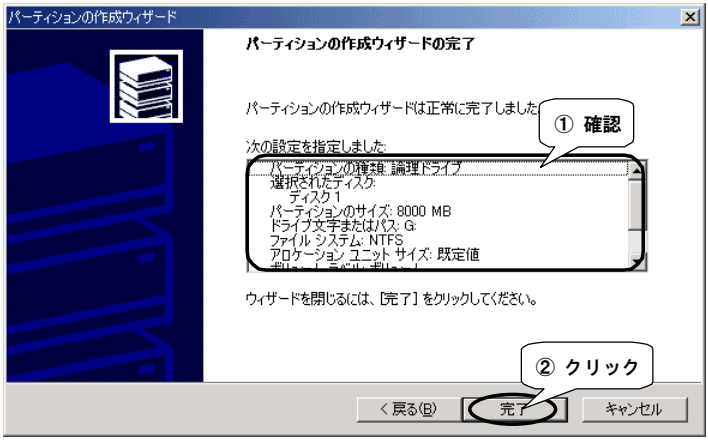
選択したいファイルシステムがある場合は･･･

手順4で［使用するディスク領域］を、ファイルシステムの最大容量以下に設定してください。最大容量については、【パーティションの基礎知識】(54ページ)をご覧ください。

23 ［次へ］ボタンをクリックします。

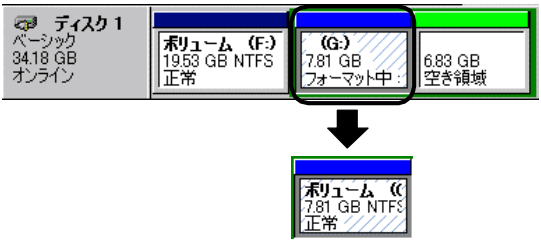


24 設定内容を確認して、［完了］ボタンをクリックします。



25 フォーマットされます。

論理ドライブのフォーマットを開始します。
フォーマットには、容量に応じた時間がかかります。
フォーマットが終わると、「マイコンピュータ」に本製品のアイコンが表示されます。



参考

「空き領域」があまっている場合は・・・
手順16から、もう一度行ってください。

作成したドライブの次回からのフォーマットについて
本製品のアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］をクリックします。

以上でフォーマットは終了です。
フォーマット後は、再起動せずにそのまま本製品を使えます。

Windows NT 4.0でフォーマットする

［ディスクアドミニストレータ］を使ってフォーマットします。

1 Administrator権限でログインします。

2 ［ディスクアドミニストレータ］を起動します。

［スタート］→［プログラム］から［管理ツール］を開きます。
［管理ツール］→［ディスクアドミニストレータ］を選択します。

3 「ディスクｘに署名がありません」と表示されたら･･･

［はい］をクリックしてください。

4 作成するパーティションサイズを設定します。

①空き領域をクリックします。
［パーティション］→［作成］を選択し、作成するパーティションサイズを設定してください。
②［パーティション］→［直ちに変更を反映］を選択し、変更結果を保存してください。

5 本製品をフォーマットします。

「未フォーマット」のパーティションを選択し、［ツール］→［フォーマット］を選択してください。［ファイルシステム］と［ラベル］を設定し、［OK］をクリックしてください。確認画面が表示されるので、［はい］をクリックしてください。

以上でフォーマットは終了です。
フォーマット後は、再起動せずにそのまま使えます。

Memo

付録

困った時には ・・・・・・・・・・・・・・・５０

本製品を使っていて、異常があったときにご覧ください。

パーティションの基礎知識 ・・・・・・・・・・・・・・・５４

パーティションの基礎知識について説明します。

ジャンパスイッチの詳細設定 ・・・・・・・・・・・・・・・５８

ジャンパスイッチの設定方法をくわしく説明します。

別売オプション品 ・・・・・・・・・・・・・・・６１

弊社 別売オプション品をご案内します。

ハードウェア仕様 ・・・・・・・・・・・・・・・６２

本製品の仕様を説明します。

困った時には

本製品を使っていて、異常があったときにご覧ください。

パソコン起動時のトラブル

パソコンが起動途中で止まってしまう

原因１　本製品か他のSCSI機器が正しく接続されていない

パソコンおよびすべての周辺機器の電源を切り、本製品を含むすべてのSCSI機器の接続（ケーブルやターミネータなど）を確認してください。

原因２　本製品のSCSI-IDが重なっている

パソコンおよびすべての周辺機器の電源を切り、SCSI-IDが他のSCSI機器と重ならないように設定し直してください。

原因３　SCSIボードが本製品の容量に対応していない

SCSIボードの取扱説明書をご覧になるか、メーカーにお問い合わせになり、本製品の容量に対応しているかをご確認ください。

原因４　SCSIボードが本製品を認識しない設定になっている

SCSIボードのBIOS設定で、本製品のSCSI-IDを認識するように設定してください。詳しくは、SCSIボードの取扱説明書をご覧ください。

原因５　SCSIの環境が不安定である

本製品と接続機器の接続順序や、接続ケーブルをご確認ください。詳しくは、SCSIボードの取扱説明書をご覧ください。

原因６　環境によっては本製品の設定が必要になる

「ジャンパスイッチ２」の下記設定にジャンパピン（小）を取り付けてください。

・Delay Motor Start
・Enable Remote Motor Start

設定方法は【ジャンパスイッチの詳細設定】(59ページ)をご覧ください。

［マイコンピュータ］に本製品のアイコンが表示されない

原因１　フォーマットされていない

弊社製SCSIボードをお使いの場合

フォーマット後、再起動してください。

他社製SCSIボードをお使いの場合

お使いのSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧になるかSCSIインターフェイスのメーカーにお問い合わせください。

原因２　SCSIボードが認識されていない

本製品を使うには、SCSIボードがパソコン(OS)に正常に認識されていなければなりません。確認および設定方法については、SCSIボードの取扱説明書を参照するか、または各メーカーへお問い合わせください。

フォーマット時のトラブル

・FDISKで[5]の項目が表示されない
・FDISKで使っていないドライブが見つからない

原因１ 本製品が認識されていない

【パソコンが起動途中で止まってしまう】(50ページ)をご覧ください。

原因２ BIOSのないSCSIボードに本製品を接続している

FDISKでは領域確保はできません。各SCSIボードに付属の取扱説明書を参照し、領域確保を行ってください。

原因３ SCSIボードのBIOSを使わない設定にしている

SCSIボードのBIOSを使う設定にした後、再度FDISKを行ってみてください。
詳しくは、SCSIボードの取扱説明書をご覧ください。

原因４ SCSIボードが本製品の容量に対応していない

SCSIボードの取扱説明書をご覧になるか、メーカーにお問い合わせになり、本製品の容量に対応しているかをご確認ください。

使う上でのトラブル

・使っている最中にデータエラーが発生する
・アクセスランプが点灯したままハングアップする

原因 **ケーブル長が長い、ケーブル類の品質が悪い、電気的なノイズの影響を受けている等の理由で、SCSIバスの状態が悪い**

SCSIボード側の設定で本製品の同期転送速度を下げてください。詳しくは、SCSIボードの取扱説明書をご覧ください。

本製品から起動できない

(DOS/Vマシン)

原因1 **SCSIハードディスクから起動できないパソコンである**

SCSIハードディスクから起動できるかどうか、パソコンメーカーにお問い合わせください。

原因2 **起動用のIDEハードディスクがある**

起動用のIDEハードディスクは取り外す必要があります。

原因3 **BIOSの無いSCSIボードで本製品を使っている**

本製品をBIOSの無いSCSIボードで使う場合は、起動用とすることはできません。

原因4 **本製品よりも小さいSCSI-IDのSCSIハードディスクを接続している**

本製品のSCSI-IDを他のSCSIハードディスクよりも前にする必要があります。

原因5 **本製品よりも小さいSCSI-IDに起動用のSCSI機器を接続している**

本製品のSCSI-IDを他のSCSI機器よりも前にする必要があります。

パーティションの基礎知識

パーティションの基礎知識について説明します。

パーティションを作らないと本製品は使えません
本製品に限らず、通常１台のハードディスクは１つまたはそれ以上のパーティション（区画領域）を作らなければ、使うことができません。

１つのパーティション＝１つのドライブ

ハードディスクのパーティションは、作成したパーティション単位にドライブ名が割り当てられます。

パーティションの種類

●Windows Me/98/NT 4.0の場合

パーティションには以下の2つがあります。

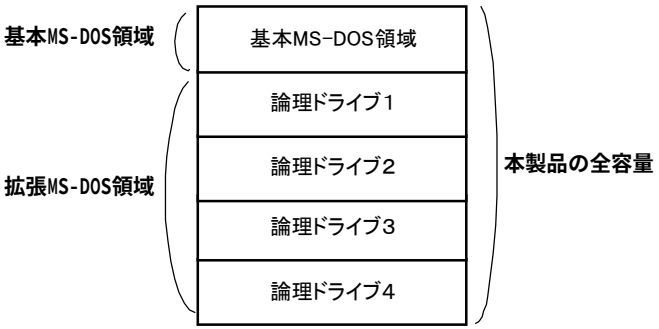
・基本MS-DOS領域

「基本MS-DOS領域」は1つしか作成できません。また、ハードディスクを増設用として使う場合には、「基本MS-DOS領域」を作成せず、「拡張MS-DOS領域（の論理ドライブ領域）」だけを作成することもできます。

・拡張MS-DOS領域の論理ドライブ領域

「拡張MS-DOS領域の論理ドライブ領域」は、「拡張MS-DOS領域」内に作成します。複数作成することができます。

本製品内に「基本MS-DOS領域」が１つと
「拡張MS-DOS領域」内に論理ドライブが４つある例



●Windows 2000の場合

パーティションには以下の2つがあります。

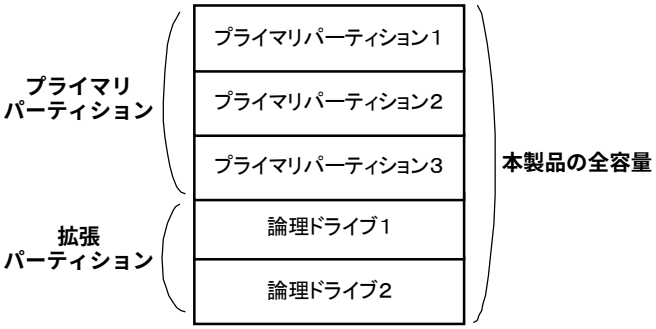
・プライマリパーティション

「プライマリパーティション」は４つまで作ることができます。
ただし、「拡張パーティション」を作る場合は３つまでとなります。

・拡張パーティション

「拡張パーティション」は１つ作ることができます。「拡張パーティション」内に、プライマリパーティションと同じように使える論理ドライブを複数作ることができます。論理ドライブを複数作ることにより、ハードディスクを４つ以上に分けることができます。

本製品内に「プライマリパーティション」が３つと「拡張パーティション」内に論理ドライブが２つある例



ドライブ名が変わることがあります



Windows 2000,Windows NT 4.0を除きます
本ページの内容は、Windows 2000,Windows NT 4.0を除きます。
それらのOSをお使いの場合は、読み飛ばしてください。

●ハードディスクのドライブ名が変わるパターン

・パソコンにすでに接続されているハードディスク

「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」がある

・本製品

「基本MS-DOS領域」がある

上の２つの条件が揃った場合、ドライブ名が変わってしまいます。



ドライブ名が変わる理由
「基本MS-DOS領域」は「拡張MS-DOS領域」よりも優先されます。
従って、本製品に「基本MS-DOS領域」があった場合、パソコンにすでに接続されているハードディスク内の「拡張MS-DOS領域」よりも優先されます。
そのため、ドライブ名が変更されます。

ドライブ名を変えたくない場合は
ドライブ名を変えたくない場合は、本製品には「拡張MS-DOS領域」のみを作ってください。

●ハードディスク以外のドライブ名が変わるパターン

例えば、CD-ROMドライブの場合、本製品フォーマット後、取り付けた本製品のドライブ名が内蔵ハードディスクとCD-ROMドライブのドライブ名との間に入ります。



ドライブ名が変わる理由
本製品フォーマット後は、CD-ROMのドライブ番号を指定したバッチファイルなどがある場合は新しいドライブ番号に変更してください。
また、CONFIG.SYSにLASTDRIVEの設定が必要となる場合があります。

OS毎の１パーティションの最大容量

OS		1パーティションの最大容量
Windows 2000	NTFS使用時	408,000,000Tバイトまで
	FAT32使用時	2Tバイトまで
	FAT使用時	4,095M※バイトまで
Windows Me		2Tバイトまで
Windows 98	FAT32使用時	2Tバイトまで
	FAT16使用時	2,047Mバイトまで
Windows NT	NTFS使用時	408,000,000Tバイトまで
	FAT使用時	4,095M※バイトまで

※ 他のOSからアクセスする場合は、2,047Mバイトまでに設定してください。



容量について
1Tバイト＝1,000Gバイト＝1,000,000Mバイト

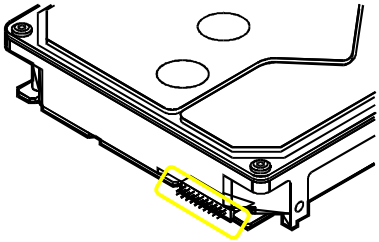
ジャンパスイッチの詳細設定

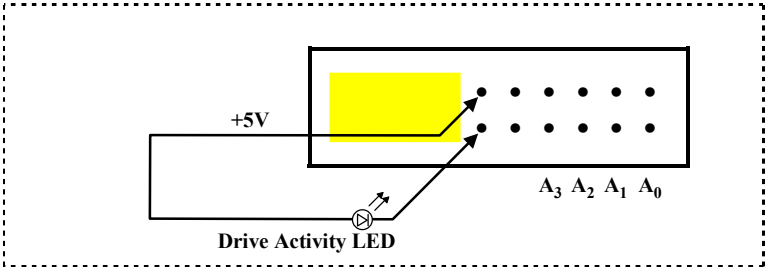
ジャンパスイッチの設定方法をくわしく説明します。
ジャンパスイッチの場所は、【各部の名称・機能】(7ページ)で確認してください。
ここの設定は、通常は必要ありません。

通常、ここの設定は必要ありません
ここの設定は、詳細な設定を必要とする方のための資料です。
本内容はサポート対象ではありません。

ジャンパスイッチ１

取り付けるジャンパピンは、ジャンパピン（大）をお使いください。



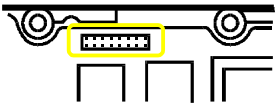


― LEDを取り付ける場合 ―

出荷時設定・SCSI-IDの設定について
【SCSI-IDを設定しよう】(10ページ)をご覧ください。

ジャンパスイッチ２

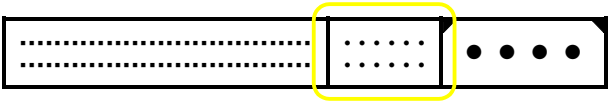
取り付けるジャンパピンは、ジャンパピン（小）をお使いください。



出荷時設定	
Force single-ended bus mode	
Delay Motor Start	
Enable Remote Motor Start	
Write Protect	
Parity Disable	
Reserved	
Term.Power to SCSI Bus	

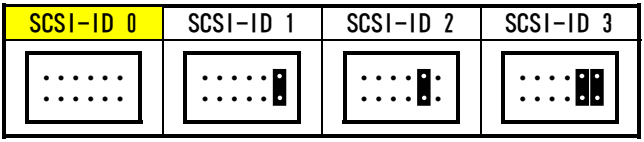
ジャンパスイッチ３

取り付けるジャンパピンは、ジャンパピン（大）をお使いください。

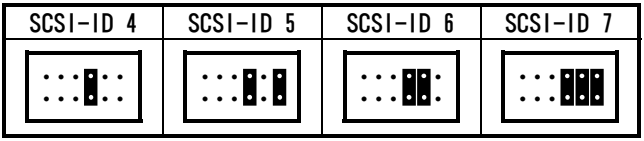


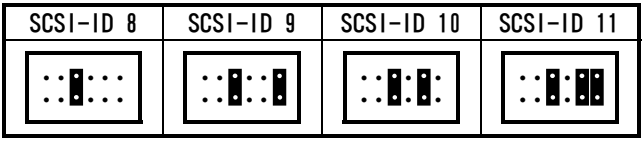
参考

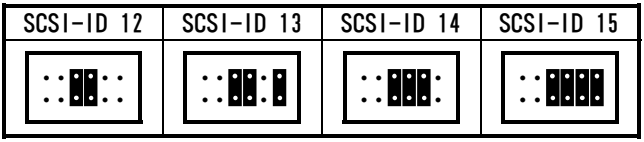
SCSI-IDの設定について
ジャンパスイッチ１か３のどちらかでのみ、SCSI-IDの設定をしてください。

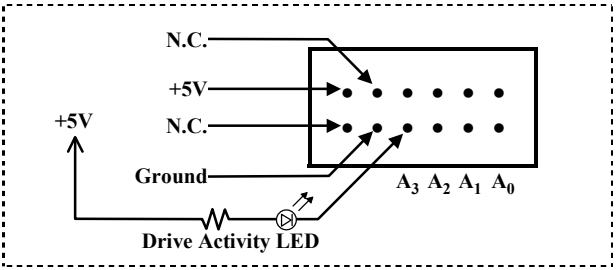


［出荷時設定］









― LEDを取り付ける場合 ―

別売オプション品

弊社 別売オプション品をご案内します。

取り付け金具

型番	対応機種	
HDK-NXS	PC98-NX シリーズ	MA16C/SZ, MA20C/SZ, MA23C/SZ, MA23D/SZ, MA26D/SZ, MA30D/SZ, MA35D/SZ, VS16C/S5, VS20C(/S5,/S7), VS23D(/S5,/S7), VS26D(/S5,/S7,/SZ), VS30(/35C,/35D,/37C,/37D,/45C,/45D,/47C,/47D), VS35(/37A,/47A)
HDK-NXM		MA23D/MZ, MA30D/MZ, MA30E/MZ, MA33D/MZ, MA40D/MZ, MA45J/MZ, MA50J/MZ, MA55J/MZ, MA60J/MZ, MA66T/MZ, MA86T/MZ, VM30(/37C,/37D,/3XC,/3XD,/47C,/47D,/4XC,/4XD), VM30G(/47C,/47D), VM35(/3XC,/3XD,/3ZC,/3ZD,/4XC,/4XD,/4ZC,/4ZD), VM40(/3FC,/3FD,/4FC,/4FD), VM550J(/77C,/77D,/7GC,/7GD,/7ZC,/7ZD,/87D,/8GD, /8ZD), VS26D(/MZ,/M7), VS30D/M7, VS30D/MZ, VS33D/M7

SCSIケーブル

型番	長さ	タイプ
FL-S68L2	75cm	Ultra160対応68ピンSCSIフラットケーブル （２ドライブ対応、ターミネータ付き）
FL-S68L4	120cm	〃 （４ドライブ対応、ターミネータ付き）

ハードウェア仕様

本製品の仕様を説明します。

ハードウェア仕様

	HDI-S36C
データ容量※	約36Gバイト
平均シークタイム	5.6msec
データバッファ	4096Kバイト
外形寸法	25.4(H)×101.6(W)×146.05(D)
インターフェイス仕様	Ultra160 SCSIインターフェイス
データ転送速度(Max)	Ultra160 SCSI:160M/バイト/Sec（同期転送理論値）
使用電源電圧	+5V ±5%, +12V ±5%
使用温湿度範囲	温度 +5～+55℃（HDDトップカバー面温度が60℃以内に収まること） 湿度 20～80%（結露なきこと）
消費電流（定格）	DC 5V 0.81A DC 12V 0.75A
本体重量	約680g

※アンフォーマット時1M/バイト=1,000,000/バイトで計算したときの値を示しています。
フォーマット後は、容量が若干減少します。

ジャンパスイッチ

ジャンパスイッチの設定については、【ジャンパスイッチの詳細設定】(58ページ)をご覧ください。

ユーザー登録について

ここではユーザー登録について説明します。

1 「ハードウェアシリアルNo. シール」を所定の位置にはります。

添付のハードウェアシリアルNo. シールを、ユーザー登録カード、ハードウェア保証書にはってください。

2 ユーザー登録をします。

ユーザー登録にはオンライン登録と、ハガキ登録の2通りがあります。

●オンライン登録

http://www.iodata.co.jp/regist/

インターネットに接続できる環境をお持ちの場合はこちらでユーザー登録してください。
I-O DATA ホームページにユーザー登録フォームが用意されています。
画面の表示にしたがって必要事項を記入してください。
ユーザー登録後、お手元のユーザー登録カードにユーザー登録番号を記入し、大切に保管してください。

●ハガキ登録

必要な事項をご記入のうえ、弊社までユーザー登録カードをご返送ください。

注意

必要事項の記入もれやシールのはり忘れにご注意ください
ユーザー登録できません。よくご確認ください。

サポートセンターへのお問い合わせ

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名。
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(起こったタイミング、本製品や画面、メッセージなどについて)。

■オンライン

インターネット	**http://www.iodata.co.jp/support/**

■郵便

住所　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器サポートセンター
「HDI-S360」係　宛

■電話・FAX

電話番号	金沢　076-260-3367　東京　03-3254-0340
電話受け付け時間	9:30～19:00　月～金曜日(祝祭日を除く)
FAX番号	金沢　076-260-3360　東京　03-3254-9055

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。予めご了承ください。

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社サポートセンターへお問い合わせください。
（【サポートセンターへのお問い合わせ】をご覧ください）

明らかに故障の場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無料修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）
修理しないとご判断いただきました場合は、無料でご返送いたします。

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、ハードウェアシリアルNO.、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）

※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

・下の内容を書いたもの

返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,
ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。

※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は、販売店へご依頼いただくか、下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。

※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理係　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。

※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。

・修理品の返送日については以下の窓口にお問い合わせください。

●サービス窓口

お問い合わせの際は、ご依頼の際にメモに控えた内容をお伝えください。

電話番号　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）